

2月報(2022年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp



2月5日 日本26聖人殉教者記念日 1597年殉教

長崎の西坂に26の十字架が立てられ、はりつけになった彼らは、最期までとにも祈り、聖歌を歌いながら殉教を遂げた。彼らの死は日本の教会の初穂となり、この地はキリシタンの巡礼地となった。聖トマス小崎 伊勢 ミカエル小崎の息子。11歳のとき、京都の修道院建立のため働く大工と親しくなり、キリストの教を受けるようになる。マルチノ神父を手伝う信仰深い少年で、司祭になる希望を持つ。母親にあてた手紙は感動的。殉教時の年齢14歳

私は、殉教者の信仰に強められるために来た。

この聖地は、死についてよりも、いのちの勝利について、何よりも復活を告げる場所。

完全な神적인のちに向かって呼ばれているのです。

(2019. 11. 24 西坂の殉教記念碑の前で 教皇フランシスコの言葉)



新成人のお祝い！ 二十歳の皆さんおめでとうございます



一日一日が恩恵の内に

神原 照子

此の度、新約聖書の写経を終えて、白浜司教様より終了認定証を賜りました。この事で月報委員会の方から、始めた切っ掛けや感想を書いてみてはと、声をかけて頂き、ペンを取りました。

切っ掛けは二年前の事です。当時私は修道院の朝の「教会の祈り」に参加させて頂いていました。が、コロナ禍で非公開となり、心に空洞をおぼえていました。そんな折、ふと写経がしたいと思ったのです。それから早朝のひと時、写経することが一日のスタートになりました。

頁をめくる内に、今までの出来事がまざまざと脳裏に浮かぶ不思議な現象が起こり、私は人生を思い返すことになりました。そして、どれ程みことばに支えられ、守られ、導かれて来たか・・・試練と思えた長い道のりにも、みことばは寄り添って、疲れた心を励まし、慰めてくださったのだと、溢れる程に甦ってきたのです。今回の写経に導いてくださった神様の愛の配慮に、感謝の思いで一杯になりました。

うまく表現できませんが、写経は単に過ぎ去って行く時ではなく、離れることなく深まっていく、神様から与えられた恵みの刻となりました。

父 想う

檀上 小百合

父が、2021年11月18日、帰天した。85歳。いつかこの日が来るであろうと思っていたけれど、別れは突然やって来るのだと驚き、寂しさがこみ上げる。

急に具合が悪くなり、入院し、医師からは回復見込みは大変厳しいと告げられた。病室で、父の苦しそうな呼吸を見ながら、これからのことが頭をよぎる。考えることを後伸ばしにしてきたことを今、決心しなければいけないと。

「父に洗礼を、洗礼を授けて送りたい。」このことは、ずっと前から自分の気持ちの中にありはしたが、いざこの時となると、焦りが生じ

「神父さんが間に合わない、どうしよう」

「もはや悩んでる時間は無い」

「そういえば、神父さんじゃなくても洗礼を受けている人が洗礼を授けることができるって勉強した」

「私が、私が・・・洗礼を授ける・・・できるのか？・・・私なんかでいいのか？」

と、こんな思いで、父に洗礼を授けたのだった。

「お父ちゃん、これ、洗礼の水、行くよ、お父ちゃん！！」

猪口神父様に連絡し、お通夜、葬儀のミサのことをお願いし、父は、福山教会にてミサに与り、旅立つことができた。

思い返すと、父は人生の大半を入退院の繰り返しだったなあって思う。(数えていないけど、おそらく30回か40回以上かも) そのつど命の危険を乗り越えながら人生を歩んでいた。



シスターからいただいたお便り



こう書くと、聞こえはいいけど、家族は多事多難。母の話によると、結婚当初から交通事故に遭い入院していたとのこと。それ以降、腸閉そく、脳挫傷や脳梗塞、心臓等を患い、くり返す入院のために、母は私たち姉妹を学校へ通わせながら、入院費用を工面し、早朝から晩まで働き通しだった。そのうえ、家の中のごたごたに母は、いや私たち姉妹も振り回され、しばしば家族の危機なるものに翻弄されることがあり、温かい家族を夢見たことも。父が入院す

ると、母は運転免許を持っていないので、病院へ通うのは私の役目だった。仕事の疲労で母は、父の見舞いもしんどかった。

晩年になると、母の体調も思わしくなく、父は自宅で生活というより、入院中か介護施設でお世話になることが続いた。家で生活したい思いを持ちつつも、父はこのコロナ禍で、自宅と介護施設の行き来をすることができず、介護施設での生活のままとなってしまった。家へ帰りたい願いの中で、周りの方々から優しい声を、ほんとにたくさんかけていただき、体の不自由はあったけれど、父はある意味幸せであったと思う。

教会との関わりは、父が若い頃に、何人かでこの福山教会を訪れることがあったと聞いており、その時撮った写真を見せてくれたエピソードがある。喪主挨拶で、若い頃以外に父は、教会を訪れることがなかったと言ってしまったけど、思い返せば私自身の結婚の時には、ちゃんと教会での結婚式に花嫁の父として参列していた！！それに、シスター高戸からお誘いを受けてアンナ会にも数回出席していた！！父の荷物を整理していたら、頂いた葉書を見つけ、それらの日々が思い出

されてきた。父は、何回も教会を訪れ、出会いの恵みをいただいていたのだ。そして皆さんに、とてもよくしていただいていたのだ。

また、私や妹が暁の星へ通う日々や、孫たちが暁の星にお世話になることで、修道院のシスター方との出会いもあり、そのご縁こそ神様の恵みである。とても感謝している。

また、暁の星セミナーのお菓子作り講座にも参加した日々もあり、その姿は、シスターが撮ってくださった写真に残っており、数少ない父の写真である。

父は、写真が趣味で、もっぱら撮る側だったので、本人の写っている写真はほんとうに少ない。だから父の姿がある写真は、とてもありがたい。

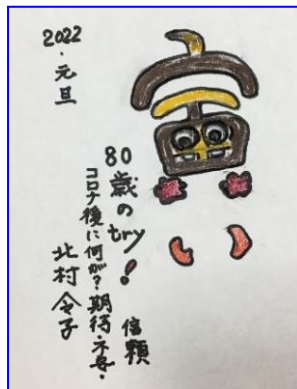
父は、教会とは無縁ではない。むしろ私自身と父を結び付けることになっていたのだ。生前中、母から父への嘆きを受け取り、私は度々、父にきつく言い聞かせるようなことがあった。しかし励ましもした。娘の立場としては、しんどかった。でも、私は自分のできる限りのことを尽くす思いで父へ接してきた。臨終が間近になった父の腕や手をさすりながら、もっと父の思いを酌んでいればよかったのかもしれないと「お父ちゃん！！」と呼びかけた。

親を初めて見送る私は、「これでよかったのか？」と言う思いと向き合いながら、幼い頃に私の手をにぎって歩いてくれていた父の掌を思い出していた。

父を教会で見送る決心は、私の人生の中で一つの大きなプレゼントをいただいたと思っている。

南相馬便り ㊿2022年1月

援助マリア修道会南相馬修道院 北村令子



明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしく願いいたします

寅い 80歳のTry。60の手習い、70は??

新しい年に何ができるでしょうか?何がやってくるでしょうか?神のみぞ知り給う。全き信頼をもって、Tryするのみです。

この南相馬便りを通して私のトライは続いています。

パソコンの操作に毎回苦労しながら、写真を取り込んで適当なところに配置したりすることはまだまだ不十分ですが、何とか皆さんに伝えたくてトライの連続です。まだ幼稚な手法でお笑いになっていらっしゃる方もあるでしょうけど、それに負けずトライ トライです。

コロナで苦しんだこの2年間、その中で得られた良いものもたくさんあります。

*世界がこの苦しみを通して一つになったこと。例外なく同じ苦しみを体験したこと。

*分断も確かに大きな痛みでしたが、それを乗り越えようとした動き、それは地球のどんなに遠く離れた人もつながることができる、不思議な方法です。この機械音痴の私でさえ、ズームとやらで南相馬の小高に居ながら、福山暁の星学院の先生方や福山や西宮のシスターと会議ができるのですから。鈍行電車、特急列車、新幹線を乗り継いで8時間かけて福山に行く苦労をせずに会えるのですから大したものです。もちろん、生(なま)の人との出会いとは違いますが、電話で話すのと比べるとぐっと近いです。(IT難民のことも心に留めて置き去りにしないで!)

*医療従事者や看護の方々の自分を顧みないで病者に尽くす、人間としての崇高な姿を見せていただいたこと。そしてその人々への感謝の心を音楽や様々な形で表現された善意の美しさ!

*教皇様のイタリアの司祭方に向けられた「恐れなくてコロナ患者の力となるため、出かけて行ってください」とのお言葉とそれに従って、コロナ患者のもとへ出て行かれた司祭方は、キリストが最期の時にもそばにいてくださることの証だとわかったこと。

まだまだ世界中で本当の人間の姿、神に似せて作られた人間の姿があることでしょう。天地創造の時、神が「見よ、それは極めて良かった。(創世記 1:31)」と言われる人間の真の姿です。

新しい年に、この苦しみの中に頂いた、これらのことを活かしていけたら、より良い世界にな

ることでしょう。いえ、より良い世界を作らなければ、未来の子供たちに感謝される世界を残さなければなりません。新しい年のすべての人の寅い Try!! を心から祈りで応援致します。

新しい年を、希望と喜びにあふれる平和な年（一日一日）に築いていけますように♡
皆様のために心からお祈りしております。

【おまけ】小高工房でさせていただいている「なんばんひろば」で、毎週火曜日の午後、聖霊会の村上シスターの指導でパステル画を楽しんでいます。2年間の作品の紹介をします。小高工房の窓際に飾ったりして、色あせてしまったものもあります。

2021年12月最後の作品は、「もうちょっと飲んだら大トラになるにゃん」



「福島やさい畑」商品完売！皆様のご協力に感謝！

福祉部

1月23日福山教会はミカエルフェスタを予定していましたが、コロナ禍のためバザーは延期になりました。が、福祉部はこの日に備えて商品を購入していましたので、賞味期限のこともあり9時ミサの後「福島やさい畑」の商品を販売しました。結果は完売！ミサ参列者も少なくなっている中、どこまで売れるかなと少し心配していましたが、心配無用。多くの方が協力して下さい、予定していた商品は全て売り切れました。教会の良さ、温かさを実感しました。有難うございました。

年に一回とは言え、このような形で被災地とつながりを持ち続けることは価値あることです。これからも続けたいと思います。（但し、支援支援と前面に出さず、そっと続けていきます。）よろしくお祈りします。



※1/23に開催予定だったミカエルフェスタは、コロナ感染の悪化に鑑み、延期される事になりました。感染状況がステージ1に落ち着いてから、改めて、感染対策等を考慮し、開催方法を検討する事になります。



聖書書き写しリレー

今回は、英語・ベトナム語・日本語で書き写すことが出来ました。ミサ前後の時間に、また平日に来られて、聖堂で静かに聖書と向き合って丁寧に書き写されている姿は祈りそのものでした。皆さんが書き収められたものを1月23日(日)の9時ミサ中で奉納し、笠岡教会へお届けいたしました。沢山のご協力ありがとうございました。

帰天のお知らせ

1月22日 ペトロ山野靖夫(80歳)

1月28日 ヤコボ今川邦八(93歳)

謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください。

2・3月の行事予定

2月		3月	
5(土)	聖園生活発表展	2(水)	灰の水曜日
6(日)	福山市内巡礼(浦上四番崩れ)中止	5(土)~ 6(日)	四旬節黙想会(李神父様)
20(日)	平和アピール1981 記念行事	18(金)	聖園卒園式
23(水)	代表者会議	20(日)	侍者デビュー
25(金)	ヨハネパウロII来広記念ミサ中止	21(月)	助祭叙階式
		23(水)	聖園終業式

この3月で、9年間を過ごした福山の地を離れることとなりました。初めて住む土地での私の心の支えは、この福山教会に他なりません。皆さんの温かいお声かけや笑顔に励まされ、共同体の一員としての自覚をようやく持てるようになり始めた矢先の転居…。寂しくてなりません。この恵みの日々を神様に深く感謝すると共に、転居先の倉敷市でも信仰の灯を絶やさぬように努めます。

皆様、今まで本当にありがとうございました。新型コロナウイルスの感染が収束し、心置きなく福山教会に集える日が早く来ますよう、心よりお祈りしております(池田春子) 月報委員会